

リバーフロント研究所報告

第 2 号

Report of

Technology Research Institute for Riverfront Development

No. 2

1991 年 3 月



財団法人 リバーフロント整備センター

Technology Research Center for Riverfront Development

は じ め に

早いもので、平成2年度は(財)リバーフロント整備センター設立後4年目の年となりました。

センターの設立以来、私どもは水辺空間の保全、利用、整備等に関する調査・研究、企画・立案、提言、広報、国際協力等に幅広く活動してまいりました。皆様のお陰を持ちまして業績も順調に向上してまいったのではないかと考えております。

これらの種々の活動の中で、豊かで、うるおいのある、生き物にやさしい川づくりのための知見と技術の集積が、リバーフロント整備センターの使命の最も基本的、根幹的な部分であり、それを担うのがリバーフロント研究所であると存じます。

今般、その研究の一部を取りまとめ、研究所報告の第2巻を発刊する運びとなりましたのは、皆様方のご指導、ご支援のたまものであります。

この一年間を振り返って見ますと、国際的には、新しい世紀に向けての新たな胎動と激動の年であり、私たちの関係する河川事業も、日米構造協議に見られるように、単なる国内問題として片づける訳には行かない状況になってまいりました。

世界のボーダレス化は、すでに始まっている国民、地域住民の意識の多様化、質の高い社会資本の整備への要求をますます加速、増大化させることは疑いのないところであります。その意味からリバーフロント整備センターに対する要求も今後一層大きくなるものと想像され、私どもはそれに答えるために更に研鑽を積む必要があると考えております。

最近のリバーフロント研究所の研究活動状況で特徴的な事は、研究内容の多様化・学際化、研究対象河川の広範化、課題のソフト化等であります。いずれにしても、研究推進の大前提である治水との調和の面について諸問題が十分解明されていない状況でありますので、この面についても着実な研究の推進を図ってまいりたいと考えております。

最後になりましたが、研究所報告所載の論文の作成に当たりまして多大なご指導、ご支援をいただきました学識経験者、建設省、都道府県、市町村、公団、コンサルタント等の方々にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。また、この研究所報告につきましてご意見を是非お寄せいただきたいと存じております。

平成3年3月

(財)リバーフロント整備センター

理事長 西 原 巧

リバーフロント研究所今後の課題

－発足3年が過ぎて－

昭和62年(1987)9月1日、リバーフロント整備センター設立と同時にリバーフロント研究所を発足させ、設立目的である水辺空間のあり方に関する調査研究、水辺空間の保全と利用及び整備に関する技術開発及び調査研究、水辺空間と地域のかかわりに関する調査研究、また、それらに関する広報・普及啓発活動に積極的に取り組んできました。

おかげさまで、研究活動も順調に進み、当初考えた以上の成果を挙げることができました。これもひとえに建設省をはじめとして、関係各位の御指導と御支援の賜物とこの紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

研究所のこの3年を振り返ってみますと、水辺空間に関する調査研究ということで、範囲が狭いものと考えていましたが、スタートしてみて逆に非常に範囲が広く、水辺に関するすべてのことが、調査研究の対象になりうるし、逆に対象にしなければならないということがわかりました。ただ、それぞれの、分野では、それぞれの専門の研究が行われており、短期間では、とても太刀打ちができず、とりあえずはそれらを利用させていただくことにして、当研究所としては、問題点の掘り起し、分析整理を手始めに、広く浅い調査研究と、正しい水辺空間の保全整備のありかたの広報普及に重点を置いて運営してきました。

しかし、研究所発足3年経過して、調査研究テーマも次第に絞れてきました。

現在重点的に取り組んでいるテーマとしては、高規格堤防に関する調査研究、水量・水質に関する調査研究、ふるさとの川モデル事業に関する調査研究、海岸関係に関する調査研究、地域開発、都市開発と水辺空間整備の調和に関する調査研究、自然豊かな川づくり（景観、動植物等の生態系等とのかかわり等を含む。）に関する調査研究、それらに関する広報・普及啓発及びデータベースの充実等々です。ただ、いずれのテーマも、非常に長期に亘る調査研究を必要とするものであり、そのつど、その時点での成果を取り出しながら、さらに、深く広く展開して行く性質のものばかりです。そういう意味で、現段階では、「研究所報告」も事

例紹介を含めた正しい水辺空間の保全整備のありかたについての当センターの主張、それに関する広報普及を重点にした編集になりました。ご一読の上、ご指導、ご叱正を賜れば幸いです。

今後も年報として毎年一回発行していきたいと考えており、特定のテーマとして纏まったものについては、別途その都度刊行していく予定です。今後のより一層の関係各位のご指導、ご支援をお願いする次第です。

リバーフロント研究所

所長 寺 田 斐 夫



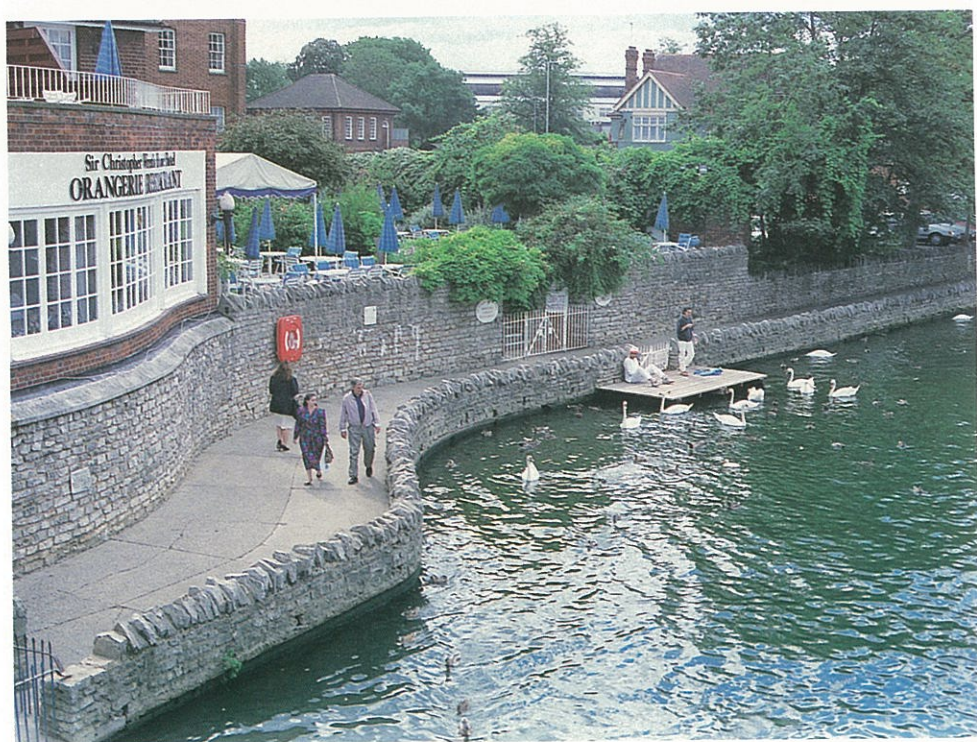
安春川(札幌市)ふるさとの川モデル事業



山崎川(名古屋市)ふるさとの川モデル事業



伝統的河川工法の例・木工沈床



テムズ川のウィンザー近辺

目 次

はじめに

口 絵 写 真

1. 寄 稿 文	1
アメリカ合衆国における河川行政の現状と課題	
..... アイオワ大学教授 J. F. ケネディ	3
2. 論 文	21
八王子ニュータウンにおける水循環保全システムの導入について	
..... 高橋邦夫・郷緒和夫	23
伝統的河川工法の事例について	
..... 山口 修・山田 平	52
親水施設の安全策について（その1）	
..... 藤井隆一・高橋邦夫	64
大都市圏のウォーターフロント地域における住宅・	
都市整備手法に関する研究	
..... 郷緒和夫・武田修一	77
水辺景観と橋梁デザインに関する研究	
..... 川崎光雄・前原克二	100
河川マリーナの現況と課題	
..... 高橋 世	119
水辺空間整備とまちづくり	
..... 里居和義	139

3. 海外出張報告	171
ニュードナウ川における水辺空間整備事例調査（オーストリア）	
..... 田代博史・津川隆博	173
イギリス・南欧における都市計画と水辺事情	
..... 北村正孝	189
テムズ川その源流から河口まで	
..... 橋本 賢	212
スイス・オーストリアの街とその水辺	
..... 北原寛志	226
4. 海外文献抄訳	243
STREAM ENHANCEMENT GUIDE	
（サケ科魚類のための河川活性化技術指針）	
..... 山口 修	245